

2018年度カルチュラル・スタディーズ学会総会 議事録

日時：2018年6月23日（土）11：45～12：45

場所：龍谷大学 大宮学舎 東翼（とうこう）301

文責：近藤和都

報告事項

1. 総務会計委員会より

会員数報告

井上幹事より下記の報告がなされた。

- ・ 総会段階での会員数は262名になっている。
- ・ 会費納入率に課題があるため、今後は会員自らが自身の会費納入状況について確認できるシステムを作る必要がある。今期幹事会にて検討することが確認されているため、次期幹事会に引き継ぐ。

2. 編集委員会より

『年報』発行、編集要項について

有元幹事より下記の報告がなされた。

- ・ 投稿締切を11月30日とする。
- ・ 編集委員会の作業フローを確立するための取り組みが行われている。可能な限り作業を標準化し、円滑に編集が行われるようにする。
- ・ 以前より規定のなかにあった「インターネット上での論文公開」について、現在、J-stageへの登録を前提に進めている。来年度中の登録を目指すように、次期編集委員会に引き継ぐ。
- ・ 学会誌が多くの方々に触れられるように、各図書館への購入希望をお願いしたい。

3. 研究企画委員会より

研究企画委員会の報告が、竹田幹事によって代読された。

- ・ 4月14日、28日に若手研究会が開催され、合計6名を越える報告が行われた。
- ・ 会員から「書評会」の開催についての希望が多く寄せられているものの、会員の多数の著作を取り上げる余裕が現在の幹事会にはないことを踏まえ、他学会の事例や現在の若手研究者の状況をもとに議論し、当面は若手の研究報告会の企画に集中することにした。ただし、学会有志が企画した「書評会」については、幹事会の承認後に、「学会として後援」することにし、学会フェイスブックやツイッターを用いた広報協力を行なった。

4. 大会委員会より

体制整備、開催校との関係、次期の課題について

伊藤幹事より、下記の報告がなされた。

- ・ 前年度・今年度と無事に大会を開催することができたが、大会委員会と開催校実行委員会の役割分担などに課題がある。次期幹事会にあらためて問題点を共有し、引き継いでいきたい。
- ・ 次回開催校は未定であるため、次期幹事会に引き継ぐ。

審議事項

1. 2017年度会計報告、2018年度予算案について

長尾会員より、2017年度会計報告、2018年度予算案の監査報告が行われた。

井上幹事より、今期幹事会において借入金の全額返済を行う旨が報告され、それを踏まえた次年度予算案が提案され、承認された。

2. 会則改訂について（伊藤）

伊藤幹事より、会則の改定案について提案がされ、下記の点について議論が行われた。

- ・ 会則案5条（入会手続きに係る）および7条（年会費に係る）の関係性があいまいではないか？年会費滞納後に再入会する場合はどうするのか？
→滞納後に再入会する場合も、あらためて5条の規定にしたがって入会届を提出する必要があることが確認された。
- ・ 滞納分の会費を全額支払わなければ再入会は認められないのか？再入会のハードルが高いのではないかと？
→滞納分の会費を全額支払うかどうかは「原則として」という表現を踏まえた運用方針によることが確認された。次期幹事会以降に運用方針はゆだねるが、柔軟に運用することが望ましいことが確認された。
→また、次回総会までは、会費滞納者に会則改定を周知し、納入を促す期間とすることが確認された。
- ・ 滞納後に退会した会員情報を保持し続けるという理解でいいか？
→個人情報保護に注意をしながら保持し続けることが確認された。
- ・ 会費滞納を1年でもするとすぐに会員サービスが停止されることになっているが、サービスを受けられないにもかかわらず、退会後に滞納分の会費を支払わせるのはよいのか？
→メーリスなど、すべてのサービスが停止されるわけではないため、学会機能のフリーライドを防ぐためにも、ある程度厳格な規定が必要だと考えられる。

以上の議論を踏まえたのち、会則の改定が承認された。

引き続き、伊藤幹事より選挙規則の改定案が提示され、承認された。

3. 次期幹事・監査について（竹田）

選挙を踏まえ、次期幹事・監査が選出されたことが報告され、承認された。次期幹事会メンバーは、指名幹事を含めて以下の通りである。

代表幹事：岩崎

編集委員会担当：有元

研究企画委員会担当：川端

大会委員会担当：辛島・村田・毛利

総務会計委員会担当：近藤・田中・藤田